

『モンテ・クリスト伯』

アレクサンドル・デュマ著、山内義雄訳／岩波文庫

『モンテ・クリスト伯Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

アレクサンドル・デュマ著、松下和則、松下彩子訳／集英社

「巖窟王」のタイトルでも知られる『モンテ・クリスト伯』は、幾度となく映画化・舞台化されたデュマの名作であるが、宝塚歌劇百周年記念公演シリーズの幕開けとして宙組の鳳稀（おおき）かなめ&実咲凛音（みさき・りおん）によって2013年春に上演され好評を博した。しかしこの「巖窟王」が本当に起きた事件を元に作られたということを知る人は少ない。1807年のパリに住んでいたフランソワ・ピコーという若い靴屋が、身よりのない金持の娘マルグリットと結婚することになり、嬉しさのあまり同郷の友人ルーピャンの経営する喫茶店でその婚約について話した。かねてからマルグリットに心を寄せていた彼は嫉妬に駆られ、この結婚式中止させようと、悪友のアントワーヌ・シャンパール・ソラリと共謀して、ピコーを当時ナポレオンに追われ亡命中のルイ18世の密偵であると密告したため、ピコー青年は秘密裏に捕縛され消息を絶ち7年の歳月が過ぎ去った。1814年ナポレオン帝政が崩壊した頃、ピコーはようやく出獄できた。彼は同房のイタリア人司教をよく世話していたため、死に際に莫大な財産を遺贈された。その財宝を利用して復讐を企て、まずシャンパールとソラリを惨殺した。さらにルーピャンの娘を誘惑して妊娠させ、その結婚式の夜に屋敷に放火して全焼させたのみならず、息子ウージェーヌに押し込み強盗を教唆実行させて懲役刑20年とした。妻であったマルグリットも相次ぐ子供達の不幸に打ちひしがれて命を落とし、遂にはルーピャン自身もピコーに殺されてしまう。しかし逆にアントワーヌはピコーを誘拐して洞穴に監禁し食事も与えなかった。ピコーは動けなくなったところを、眼をえぐられ腹を割かれて殺されてしまう。犯人アントワーヌはイギリスに渡り1828年この事実を聴罪司祭に話して死んだが、その記録は警察庁の古記録保管所に保存され十年後に発表されたものを、デュマが入手して小説化し、当時のベストセラーとなったものである。

「モンテクリスト伯の言葉」

*「私の行動の真実をお知らせしましょう。この世には幸福もあり不幸もあり、それはひとつの状態と他の状態との比較に過ぎないということなのです。

極めて大きな不幸を経験した者のみ、極めて大きな幸福を感じることができるのです。生きることのいかに楽しいかを知るためには一度死を思ってみる必要があります。そして人間の英知は次の言葉に尽きることを忘れないで下さい。

待て、そして希望せよ！ (Attendre et Espérer!)」アレクサンドル・デュマ著、山内義雄訳『モンテ・クリスト伯』岩波文庫

* 「囚われの身の辛さも二人で分けあえば半分になるだろう。二人と一緒に嘆くならば、それはほとんど祈っているようなものだ。二人と一緒に祈れば、それは神への感謝に近いものだ。」(p164) 「学ぶことと知ることとは別だ。世の中には、物知りと学者とがいる。物知りをつくるのは記憶で、学者を作るのは哲学なのだ。」(p189) 「人生において重大な関心事といえば、ひとつしかありません。すなわち死です。」(p432) 「蠟燭も人間の生命と同じである。人はその生命を伝える方法は、まだ一つしか見つけてはいない。そしてこの方法は神から授けられているのである。しかし生命を奪う方法は、無数に発見した。その最高の仕事のために、悪魔が幾分か人間に手を貸しにやって来たことは事実である。」(p463)

アレクサンドル・デュマ作、松下和則彩子訳『モンテクリスト伯Ⅰ、集英社版世界文学全集24』

* 「すべての不幸にはふたつの薬がある。つまり時と沈黙だ。」(P107) 「老人達にとっては、死が一時自分のそばを離れて、他の老人を襲ったときほど、恐ろしいことはない。」(P399) 『モンテクリスト伯Ⅱ、集英社版世界文学全集25』

* 「精神の傷というものは、人の眼にこそ触れないが、決して傷口が塞がらないという特色を持っている。つねに苦痛を伴い、人の手が触れるとすぐに血を流し、心の中でいつも生々しく、口をぱっくりとあけているものだ。」(P139) 「この世には、幸福も不幸もないのです。あるのは一つの状態と、もう一つの状態との比較だけです。極度の不幸を味わった者だけが、この上もない至福を感じ取ることができるのです。」(P484) 「人間の叡智は次の二つの言葉でいいつくされるって。－待て、そして希望を持て！」(p485) 『モンテクリスト伯Ⅲ、集英社版世界文学全集26』

執筆 者 紹 介

福本 一郎

生物機能工学専攻教授（平成27年3月退職）。専門領域は、医用生体工学。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『モンテ・クリスト伯 改版 [全7巻]』 Alexandre Dumas著 山内義雄訳 岩波書店（岩波文庫）2007年 821-929円

『モンテ・クリスト伯 [全3巻]』 Alexandre Dumas著 松下和則、松下彩子訳 集英社（世界文学全集 24-26巻）1980年 品切

[ブックガイド目次へ](#)